

別記様式第 2 号

会議の概要報告

会議の名称	佐野市子ども・子育て会議
1 開催日時	令和 2 年 3 月 4 日 (木) 13 時 30 分～14 時 15 分
2 開催場所	佐野市中央公民館 会議室 1, 2
3 委員等の人数	20 人
4 出席委員等の人数	11 人
5 議題	特定教育・保育施設の利用定員の設定について
6 会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0 人
8 会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 佐野市子ども・子育て会議委員名簿 ・ 令和 3 年度 利用定員設定・変更施設一覧 ・ 佐野市赤見城保育園、石塚保育園及び吉水保育園統合民営化に伴う実施予定事業者の概要
9 会議の概要 (発言の要旨)	<p>○委員紹介について 新しく委嘱した委員 2 名を紹介。 佐野市小中義務教育学校 P T A 連絡協議会 堀川氏 認定こども園保護者会 小林氏</p> <p>○令和 3 年度 利用定員設定・変更施設一覧について 利用定員設定について全員一致で承認された。</p> <p>(中山委員) 利用定員と認可定員があって、認可定員は保育室の面積換算で入ることができる人数で、愛育幼稚園の場合には、1 号 60 名、2・3 号 64 名、利用定員は、1 号 45 名、2・3 号合わせて 10 名ということで、これは条件満たせばハード面では、2・3 号についてあと 54 人は収容可能という理解でよいか。</p>

(保育課) そのとおり。

(小早川委員) 認定こども園愛育幼稚園について、認可定員は2・3号64名であり、利用定員が10名とのことであるが、今後、利用定員を増加させることはできるのか。

(保育課) 利用定員を変更する場合には、市に事前に協議する必要がある。佐野市全体の保育需要を勘案しながら決定する。変更する場合には、子ども・子育て会議で報告することになる。

(小早川委員) 認定こども園愛育幼稚園について、認可定員に対して利用定員が少ないのはどうしてか。

(保育課) 利用者の希望を考慮して決定している。

保育課より利用定員変更について報告。

(中山委員) 同様の質問になるが、4認定こども園犬伏幼稚園について、2・3号の変更後の認可定員の数が121名で、変更後の利用定員の数が106名であるため、施設規模ではあと15名が入れる余地があるという理解で良いか。

(保育課) そのとおり。

(長谷川副会長) 定員の変更に関わる指標で、佐野市の出生率もコロナの影響を受け、入園の申し込みが少ないと聞いているが状況はどうか。

(保育課) 令和3年度の入園者数については、ただいま3次の申込者の入園調整中について、確定していない。令和3年度の審査対象児童数については、令和2年度に対して、135人減、内訳は0歳児27人減、1歳児51人減、2歳児25人減、3歳児10人減、4歳児18人減、5歳児4人減となっている。

(小林会長) 減少した理由についてどう考えているか。

(保育課) 新型コロナウイルス感染症の影響が多いかと思

われるが、原因は特定できていない。入園申込については、少子化によって今までは子どもが減るといいながらも就労者数の増加により希望者は増えていたということもあり、そういった様々な要因に左右されるので今後の見込みの数を出すのは難しい。

(小林会長) 待機児童の数が頭打ちであるという資料がある。東京の23区は2026年に待機児童がなくなる、政令指定都市2024年、中核市2023年、中小都市はすでに転換点を迎えているという予想もある。どのぐらいの規模の子ども達が保育所や認定こども園に入ってくるのか予想できないが、このような資料があることを頭に入れて会議に臨んでほしい。今までは足りないと施設整備やっていたが、飽和状態になるときがある。難しい局面に入ってくるという資料になる。佐野市も保育施設の定員をどうするか考えているので、皆さんも興味関心をもってほしい。

(中山委員) 佐野市も受給調整や利用調整などで苦労されている。ただ現状、佐野市も財政難であり、需給について、申込の減少しているなかで、十分に入所できるハード面はある。子どもが減っているが、施設的には余裕がある。

したがって、今後の施設整備は計画変更した方がいいのではないかと。建設が決まっているところはそのまま進めてもらいたい、まだ決まっていないところがあれば、見直しをしてもらいたい。財政難なので、貴重なお金を別の場所に使ってほしい。施設が余るのをわかっていてそこに投資することは得策ではないと委員としても思うし、納税者である一市民としても思う。

(小早川委員) 先ほどの待機児童の資料で佐野市はどこに該当するか。

(保育課) 佐野市は中小都市に該当する。

(小早川委員) 0・1歳は希望の園に入れないと聞いたこともあるが、データみると受入れは十分可能であるように見える。

(保育課) 令和2年4月1日時点では待機児童ゼロである。

	<p>ただし現状として、入れる場所はあるが地理的条件など希望とは合わないということはある。</p> <p>(小林会長) 過去5年間の佐野市の出生数の資料を配布する。佐野市では、685人(H31.4.2~R2.4.1生)となっている。コロナでまた減るのではないかともいわれている。佐野市でこれから1年間に生まれる数はどれくらいかしっかり考えていく必要がある。参考資料として活用していただきたい。</p>
<p>10 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐野市赤見城保育園、石塚保育園及び吉水保育園統合民営化に伴う実施予定事業者の概要について
<p>11 その他概要 (発言の要旨)</p>	<p>(中山委員) 保育園や学童保育に関して、実際にどれくらいなのかわかる定員の数や定員充足率などを示した資料をご提示いただきたい。</p> <p>(小早川委員) 統合民営化について、将来展望も含めてどういう方針かなにか市として考えはあるか。</p> <p>(保育課) 定員については、子ども・子育て支援事業計画のなかに確保方策と量の見込みということで設定している。</p> <p>実際のところ、確保と量の見込みと実際の利用定員の数は合わないが、第2次佐野市保育所整備運営計画では、新たに建設する民間園と公立保育園を閉園しながら、少しずつ利用人数の調整をしているという形をとっている。今回、三園が統合することによって、全部で170人分の定員が減となる。新しく作る新園が利用定員90人となるので、差引80名減となる。</p> <p>(七原委員) 赤坂保育園の民営化については予定通りか。コロナ禍を踏まえて変更はあるか。</p> <p>(保育課) 予定では令和3年度から募集開始して、民間移管を進めていきたいと考えている。ただ、利用定員については、今後新たに委員会を設置して、どれくらい的人数が必要か委員に諮りながら進めていきたいと考えている。</p> <p>施設規模では赤坂保育園100人は入れるが、今のところ、85名の利用となっている。現利用者数を提示して委員会に諮ろうと考えている。</p>

(小早川委員) 民間で経営している方々は非常にご苦労されている。

今後、民営化する際には、その方々の状況を確認し、既設認定こども園等を経営する人たちの意見を十分によく聞いてもらいたい。

(小林会長) 公立保育園、私立保育園、幼稚園、認定こども園、小規模まで含めて、経営的などころもしっかり考えていかなければならないと考え、3年前に佐野 SS 研を発足して会長を行っている。